

報道関係各位

2012年度日本PR大賞「パーソン・オブ・ザ・イヤー」 及び「シチズン・オブ・ザ・イヤー」決定

「パーソン・オブ・ザ・イヤー」受賞者はドナルド・キーン氏 「シチズン・オブ・ザ・イヤー」受賞者は大廻 政成氏

企業・各種団体の広報部門とパブリックリレーションズ（PR）関連企業の会員で構成する公益社団法人日本パブリックリレーションズ協会（略称：日本PR協会・理事長 森 健）では、PRに対する理解促進を目的に、毎年「PRパーソン・オブ・ザ・イヤー」を選考し顕彰していますが、2012年度から協会が公益法人に移行したことを記念して、従来の「PRパーソン・オブ・ザ・イヤー」とは別に「PRシチズン・オブ・ザ・イヤー」を新設、表彰することとなり、このほど2012年度の受賞者が決定しました。

この2つの部門は各々日本PR大賞「パーソン・オブ・ザ・イヤー」と日本PR大賞「シチズン・オブ・ザ・イヤー」と呼称し、今後継続して年1回顕彰していきます。

《日本PR大賞「パーソン・オブ・ザ・イヤー」受賞者及び表彰式》

日本PR大賞「パーソン・オブ・ザ・イヤー」は、その基本理念であるパブリックインタレスト（公益）に貢献した人、あるいはそれぞれの分野でPRの視点から活躍した人を表彰するもので、2012年度は、日本文化研究の第一人者で、コロンビア大学 名誉教授のドナルド・キーン氏に決定しました。

受 賞 者：ドナルド・キーン 氏（どなるど きーん）

受 賞 理 由：昨年の東日本大震災を契機に、多くの外国人が日本を離れる中、日本永住を決意し、「私は『日本』という女性と結婚する」として2012年3月8日、日本国籍を取得された。90歳でのその行動と存在は、震災で傷ついた多くの日本人に感銘を与えた。また、取材や講演を通じて新たな祖国日本にエールを送り続けている。多くの人々の共感を呼び、日本社会を勇気づけた行為は、パブリックインタレストに大きく貢献したと評価される。

選 考：当協会会員ならびに広報委員会 顕彰委員が選考を行い、同氏に贈ることに決定しました。

表 彰：トロフィーと副賞10万円を授与

表 彰 式：表彰式は来年1月23日（水）当協会主催「新春PRフォーラム」第1部で執り行います。

《日本PR大賞「シチズン・オブ・ザ・イヤー」受賞者及び表彰式》

日本PR大賞「シチズン・オブ・ザ・イヤー」は、「地道で独創的な広報・PR活動」の掘り起しを目的に、企業や団体で長年にわたり独創的な広報・PR活動を実践し、広く社会や地域の発展に寄与し、奨励に値する成果を収めた個人またはグループ（NPOを含む）を公益法人として認定・顕彰するものです。第1回は財団法人 丸岡町文化振興事業団 常務理事の大廻 政成氏に決定しました。

受 賞 者:	大廻 政成 氏（おおまわり まさなり）
受 賞 理 由:	今年で20周年を迎える「日本一短い手紙 一筆啓上賞」の仕掛け人。現代の人々に手紙の持つ力を再認識させるとともに、福井県丸岡町を手紙文化のふるさとにした。入選作をまとめた書籍は毎年ベストセラーに名を連ね、外国語にも翻訳。映画やドラマ、舞台としても上演され、世界に多くの感動を届けている。
選 考:	当協会会員が推薦、ならびに広報委員会 顕彰委員が選考を行い、同氏に贈ることに決定しました。
表 彰:	トロフィーと副賞10万円を授与
表 彰 式:	表彰式は来年1月23日（水）当協会主催「新春PRフォーラム」第1部で執り行います。

別添 : 過去の「PRパーソン・オブ・ザ・イヤー」受賞者一覧
: （公社）日本パブリックリレーションズ協会について

※この報道資料は2012年12月14日、東商記者クラブにおいて配布されたものです。

●この件に関するお問い合わせは下記までお願いします。

公益社団法人 日本パブリックリレーションズ協会

担当 : 佐野、縮(ちぢみ)

TEL: 03-5413-6760 FAX: 03-5413-2147

添付資料 1

「PRパーソン・オブ・ザ・イヤー」受賞者一覧

(過去 10 年掲載／敬称略／役職は当時のもの)

2011 年度		
受賞者氏名	役職	受賞理由
佐々木則夫	サッカー日本女子代表(なでしこジャパン)監督	FIFA女子ワールドカップ 2011 決勝。息詰まるPK戦を控えても、日本女子代表「なでしこ」の選手たちに笑みを振りまいていた佐々木則夫監督は、女子スポーツにおける新しいタイプの指導者といえる。同監督は選手の個性と自主性を尊重し、「楽しむ」ことを基本に指導、メディアにも自然体で対応するなど、コミュニケーターとしての新しい姿を見出すことができる。
2010 年度		
受賞者氏名	役職	受賞理由
池上 彰	ジャーナリスト	わかりやすい、かみくだいたニュース解説と丁寧な語り口が幅広い世代に人気を集め、ニュースへの一般の関心を高めた功績は大きく、社会全般の広報PRマンといっても過言ではない。
2009 年度		
受賞者氏名	役職	受賞理由
辻井いつ子	ピアニスト辻井伸行氏の母親	2009 年 6 月、アメリカ・テキサスで行われた第 13 回ヴァン・クライバーン国際ピアノコンクールにおいて、初めて日本人として優勝した盲目のピアニスト辻井伸行氏を育て上げた。1988 年に生まれた長男伸行氏が生後まもなく全盲とわかり、絶望と不安のなか、手探りで子育てをスタート。持ち前の積極性と行動力で伸行氏の可能性を開花させた。サイト開設や著書を発表すると同時に、『辻井流子育て術』を無料でメール配信することで、子育てに悩む親たちを大いに力付けている。
2008 年度 該当者なし		
2007 年度		
受賞者氏名	役職	受賞理由
東国原英夫	宮崎県知事	知事就任後、「宮崎をどけんきやせないけん」というフレーズで、腐敗した県政にメスを入れ、自ら報酬を減額するなどして赤字財政の建て直しを図る一方、鳥インフルエンザの風評被害対策や県内特産品のPRに奔走、宮崎県のみならず、疲弊している地方自治に国民の関心を向けさせた功績は多大。
2006 年度		
受賞者氏名	役職	受賞理由
川島隆太	東北大学加齢医学研究所教授	今年前半のヒット商品番付で横綱に輝いた「脳を鍛えるゲーム」。川島教授はその仕掛け人で、脳機能の改善・回復を可能とする「学習療法」の第一人者。これを一般にアレンジし、書籍や知育玩具に応用。任天堂の「DSTレーニング」シリーズは累計 600 万本を突破する爆発的なヒットとなった。
2005 年度		
受賞者氏名	役職	受賞理由
野口聡一	宇宙航空研究開発機構宇宙基幹システム本部有人宇宙技術部 宇宙飛行士	スペースシャトル・ディスカバリー号に搭乗し、スペースシャトル飛行再開のための新技術の確認、国際宇宙ステーション(ISS)機器の交換・取り付けや、食料・消耗品などの物資補給を実施。近い将来の宇宙ステーションでの生活実現のために重要なミッションを成功させた。また、宇宙から日本の文化や伝統をPRした。その親しみやすいキャラクターとスペースシャトルでの冷静沈着な活動が、全世界の人々に感動を残し、多くの子どもたちに夢と希望を与えてくれた。
2004 年度		
受賞者氏名	役職	受賞理由
古田敦也	日本プロ野球選手会会長・ヤクルトスワローズ	プロ野球チーム合併・再編問題を契機として経営者側と交渉に臨み、テレビ・新聞など多くのメディアを通じて、プロ野球選手会会長&スポークスマンとして、球界の体質改善・構造改革・12 チーム制存続を積極的に呼びかけ、その言動がファンのみならず、多くの人の圧倒的な支持を得た。個人成績においても打撃 10 傑に入る活躍を見せた。
2003 年度		
受賞者氏名	役職	受賞理由
北川正恭	早稲田大学大学院教授・21 世紀臨調代表・元三重県知事	衆議院議員から三重県知事となり、情報開示と県民との対話を基本とした、開かれた県政を実現。地方から日本の政治のあり方を変えるために「マニフェスト」を提唱、今回のマニフェスト選挙の実現に多大な影響を及ぼした。
2002 年度		
受賞者氏名	役職	受賞理由
川淵三郎	前日本プロサッカーリーグ チェアマン	日韓合同ワールドカップを成功に導くとともに、その後のJリーグを国民的人気スポーツへと育成した。そしてサッカーの普及を通じて日本国民に夢と希望と国際交流の素晴らしさを与えた。

添付資料 2

公益社団法人 日本パブリックリレーションズ協会（略称：日本PR協会）について

公益社団法人 日本パブリックリレーションズ協会（略称：日本PR協会（PR SJ）／理事長 森 健）は、1964年に結成された日本PR協会と、1974年に設立された日本PR業協会が1980年に時代に即したPRの在り方を求め、PRの啓発・普及を図るために合併統合されました。

現在は、一般企業の広報部門、PR業およびPR業関連会社、それに学者・有識者を含む約500名で組織されているPRのプロフェッショナル団体です。

また、2012年3月に公益社団法人として認定され、4月1日から公益社団法人 日本パブリックリレーションズ協会として新たな組織としてスタートいたしました。

主要活動としては、広報・PRパーソンの倫理の徹底や「各種研修セミナー」などの教育事業、会員相互の交流事業、年鑑「PR Yearbook」や会員誌「協会ニュース」、PRにかかわるデータを網羅した「PR手帳」などの出版事業、優れたPR事例を顕彰する「PRアワードグランプリ」、傑出したPRパーソンを表彰する「PRパーソン・オブ・ザ・イヤー」の運営等を行っており、これらの活動を通じて「パブリックリレーションズ」の理解促進と、会員のPRスキル向上を推進しています。また、2007年より、PRパーソンとしての知識やスキル、職能意識を有することを認定する資格制度「PRプランナー資格認定制度」をスタートさせ、協会内外のPRパーソンや、PRに興味を持つ学生などの幅広い参加をいただいております。2009年10月からは、新たに時代の要請に応える広報・PR人材育成センターを目指し、広報力アップを目的とした「広報PRアカデミー」を開講いたしました。

さらに、PRプランナー資格認定制度対応テキストとして、2010年4月に「広報・PR概論(1次試験対応)」を、2011年3月に「広報・PR実務(2次・3次試験対応)」を、2012年4月に過去問題集を出版し、広報・PRの普及と発展に寄与しております。

公益社団法人 日本パブリックリレーションズ協会

〒106-0032 東京都港区六本木6-2-31 六本木ヒルズノースタワー5F

TEL：03-5413-6760 FAX：03-5413-2147

Email：mail@prsj.or.jp